

平成 30 年度琉球大学法科大学院
C 日程（甲方式） 未修者コース 入試問題

小 論 文

平成 29 年 12 月 17 日（日曜日）
10 時 00 分～11 時 00 分（60 分）

注意事項

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いのないように受験してください。

- 1 この試験では、問題冊子 1 部、解答用紙 1 枚、下書用紙 1 枚を配布します。
試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この試験の解答として提出された小論文は、面接の際の資料として用いられます。
小論文に対する評価は、面接試験の得点の中で評価されます。
- 3 試験開始後、問題の部分に印刷不鮮明、汚損等があれば直ちに申し出てください。
- 4 解答は、必ず解答用紙に記入してください。解答に用いたすべての解答用紙の所定欄に、
受験番号と氏名を記入してください。
- 5 黒色または青色であれば筆記用具は問いません。ただし、鉛筆書きの場合は文字が薄く
ならないように十分注意してください。
- 6 試験開始後は、途中退席できません。用便を希望する際は手をあげてください。
- 7 試験終了後、解答用紙を回収するので、指示があるまで席を立たないでください。
配布した解答用紙は、書き損じや未使用のものも含めて、すべて回収します。
問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。
- 8 その他は、すべて監督者の指示に従ってください。

問題

次の【文章】を読んで、〔設問〕に答えなさい。

【文章】

(文章については、著作権の関係で、当 Web ページには掲載していません。)



(新川敏光「シルバー民主主義を考える(中)」日本経済新聞平成29年5月4日付け朝刊より抜粋)

〔設問〕

社会保障給付の引き下げといったような、日本の急速な高齢化や生産年齢人口の減少に対応するための各種の「不人気政策」が容易に実現しない理由について、著者の考えを明らかにしたうえで、こうした「不人気政策」はどうすれば実現可能となるのかについて、あなた自身の具体的な考えを1,000字以内で述べなさい。

以上

C 日程小論文試験問題出題趣旨（公表用）

人口減少社会は、有権者・投票者に占める高齢者層の割合を相対的に高め、政治的影響力をも高める。政治家が有権者・投票者の獲得を意識する結果、政策に高齢者向けのバイアスがかかり、少数派である若年・中年層の民意が政治プロセスに反映されづらくなることを説明するのが、「シルバー民主主義」（シルバー・デモクラシー）仮説である。世代間不公平が議論されるところでは、この仮説が取り上げられることが多く、受験生においても旧知であったかと思われる。

厚生労働省によれば、平均寿命は今年、過去最高を更新し、国立社会保障・人口問題研究所によれば、2015年度の年金や医療・介護などの社会保障給付費は過去最高を更新した。社会保障給付費を支える若年・中年層の負担が増加するなかで、世代間格差の固定化を放置することはできず、「不人気政策」への取り組みは喫緊の課題といえる。

本問は、「シルバー民主主義」により、民主主義の枠組みのもとでの「不人気政策」の実現が困難になっている現状を踏まえつつ、そうしたジレンマから脱却するための方策を受験生に考えてもらうものである。参考までに付言すると、著者である新川教授は、抜粋部分に続けて、「不人気政策でも問題の本質と改革の必要性を真正面から訴え、抜本的改革を実現する可能性がないわけではない」として、超党派による合意形成の必要性を説かれる。不人気政策を実施したことによる有権者からの非難リスクの分散が可能になるから、というのが主な理由である。

もとより、この問題に対する処方箋は簡単には描きえない。そのため、示された各方策の妥当性・有効性よりは、受験生の、自己の見解をまとめ上げて具体的に表現する力や、答案に反映されている問題意識の明確性をみることを、ねらいとしている。